

下部消化管(大腸)内視鏡検査説明書

[検査の目的]

大腸ポリープ、腫瘍、その他の大腸疾患の診断

[検査の内容]

検査前日に下剤を4錠飲んでいただきます。検査当日は午前9時頃から(飲用開始時間は健診内容により変動します)腸管洗浄剤を約2時間かけて1800ml飲んでいただき、便がほぼ水様になったことが確認できれば午後から検査を行います。

肛門から内視鏡を挿入し、盲腸に到達した後、引き抜きながら更に洗浄、液体の吸引を繰り返しながら大腸粘膜を観察していきます。途中でポリープや腫瘍、炎症が見られた場合、組織採取(生検)を行うことがありますが、ポリープ切除は行いません。生検した場合、保険請求のため自己負担が生じることがあります。

[検査予定時間]

内視鏡を挿入してから抜去するまでは約15～30分程度です。ただし便秘傾向で腸管が長い方、腹部手術歴のある方などは、長い時間がかかる傾向があります。盲腸までの挿入が困難な場合、苦痛が強い場合は途中までの観察で中止することもあります。

[予測される危険]

基本的には安全な検査ですが、穿孔(腸が傷ついて穴があいてしまう)などの合併症は0.04%(1万人に4人)程度と報告されています。穿孔が起こった際にはお腹の中に空気や腸液、便が漏れ、腹膜炎などを引き起こすこともあり、緊急手術となることがあります。また生検を行った場合に少量の出血が見られますが、通常は短時間で自然止血されます。

他に検査前の注射(鎮痙剤)や腸管洗浄剤によるアレルギーなど、予期せぬ偶発症が起こり得る場合があります。

また、高度の便秘、腸閉塞の既往、腎不全、進行大腸がんが疑われる場合など、腸管洗浄剤の飲用自体が危険な場合があります。

特に生命に関わるような偶発性が起こった場合には迅速に対応し、救命に努めます。

[検査中の鎮静剤の使用について]

麻酔や鎮静剤を必要とするほどの苦痛がある中で検査を続行することは、上記の偶発症の確率を高めるため使用しません。また予め鎮静剤を注射し、苦痛を訴えることができなくなることはかえって危険と考えられますので使用しません。

[検査後の注意]

大腸の詳細な観察のために空気が入るため、お腹が張ったり、気分が悪くなったりする事がありますので、トイレの中でできるだけガスを出してください。また食事はお腹の張りがなくなった後、水やお茶を飲んで問題ないことを確認後摂取してください。

[代替可能な検査法]

カプセル内視鏡、大腸CTがありますが、一般に普及しておらずお勧めしません。精度は劣り、完全な代替検査ではありません。

下部消化管(大腸)内視鏡検査に関する同意書

JA高知病院JA高知健診センター長 殿

検査予定日： 年 月 日

私は「下部消化管(大腸)内視鏡検査説明書」について、その内容を理解しました。
その上で下部消化管(大腸)内視鏡検査を受けることに、

同意します

同意しません

記載年月日： 年 月 日

同意者本人(自筆署名)： _____

※検診受診様本人で判断できない又は記名できない状況・場合に代諾者が自筆署名してください、

代諾者(自筆署名)： _____

検診受診者様氏名： _____

検診受診者様との関係： _____

※同意書は、健診当日受付にご提出下さい。